

住宅火災による死者の実態について

高齢者の生活実態に対応した住宅防火対策のあり方に関する検討部会（第1回）

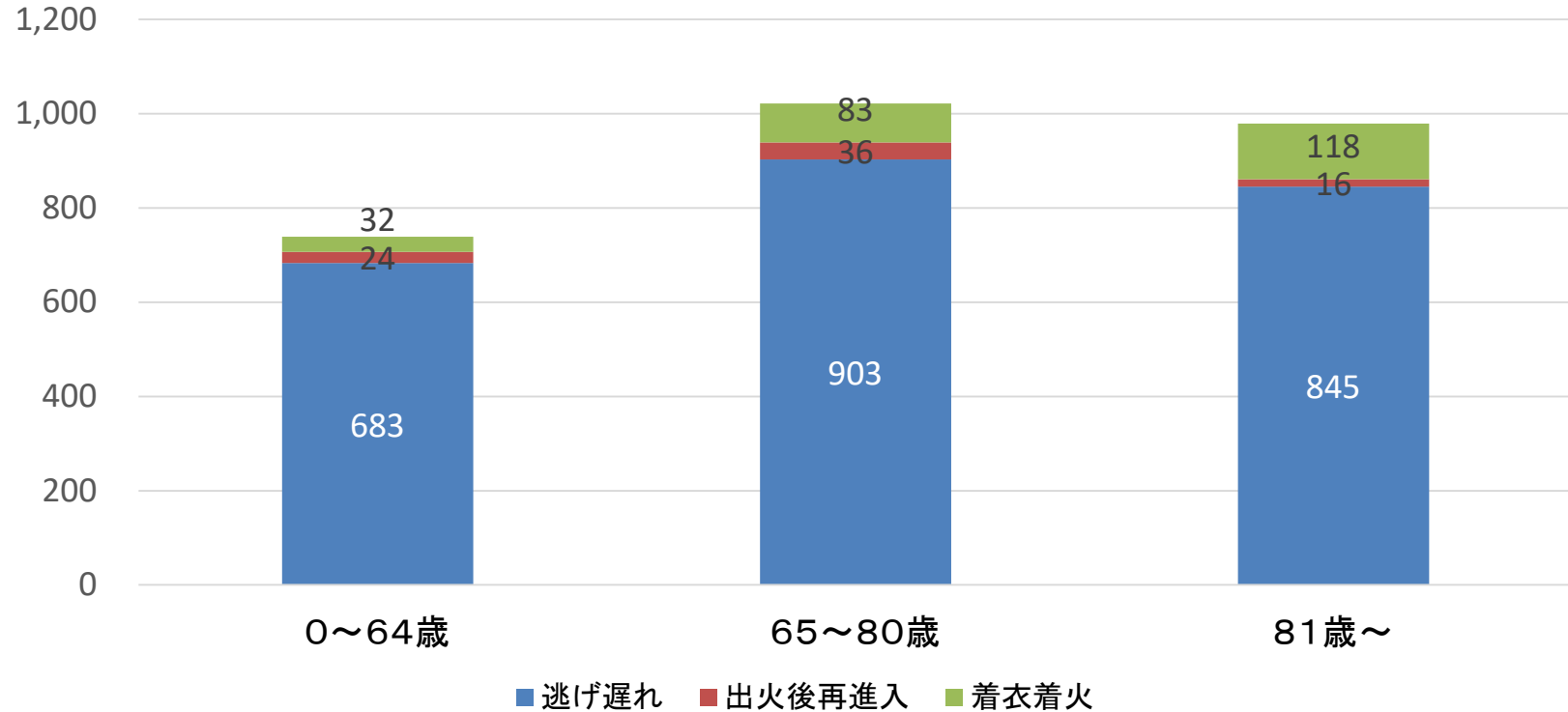
各年齢層の主な出火原因別死者数の割合

出火原因	年齢層 (%)		
	0～64歳	65～80歳	81歳～
たばこ	34.5	34.7	14.1
ストーブ	13.7	22.4	30.9
こんろ	7.2	9	10.2
電灯電話等の配線	7.4	5.6	7.4
配線器具	5.6	5.1	8.3
灯火(灯明)	2.4	2.8	8.2
こたつ	0.7	1.8	2.5
マッチ・ライター	2.1	2.2	2.9

出火原因別の死者数では、全年齢層において、**たばこ**、**ストーブ**の割合が多いが81歳以上の年齢層では特に**ストーブ**の占める割合が多い。

また、81歳以上の年齢層ではこんろ、灯火、配線器具(コンセント等)等の割合も他の年齢層よりも高い傾向がある。

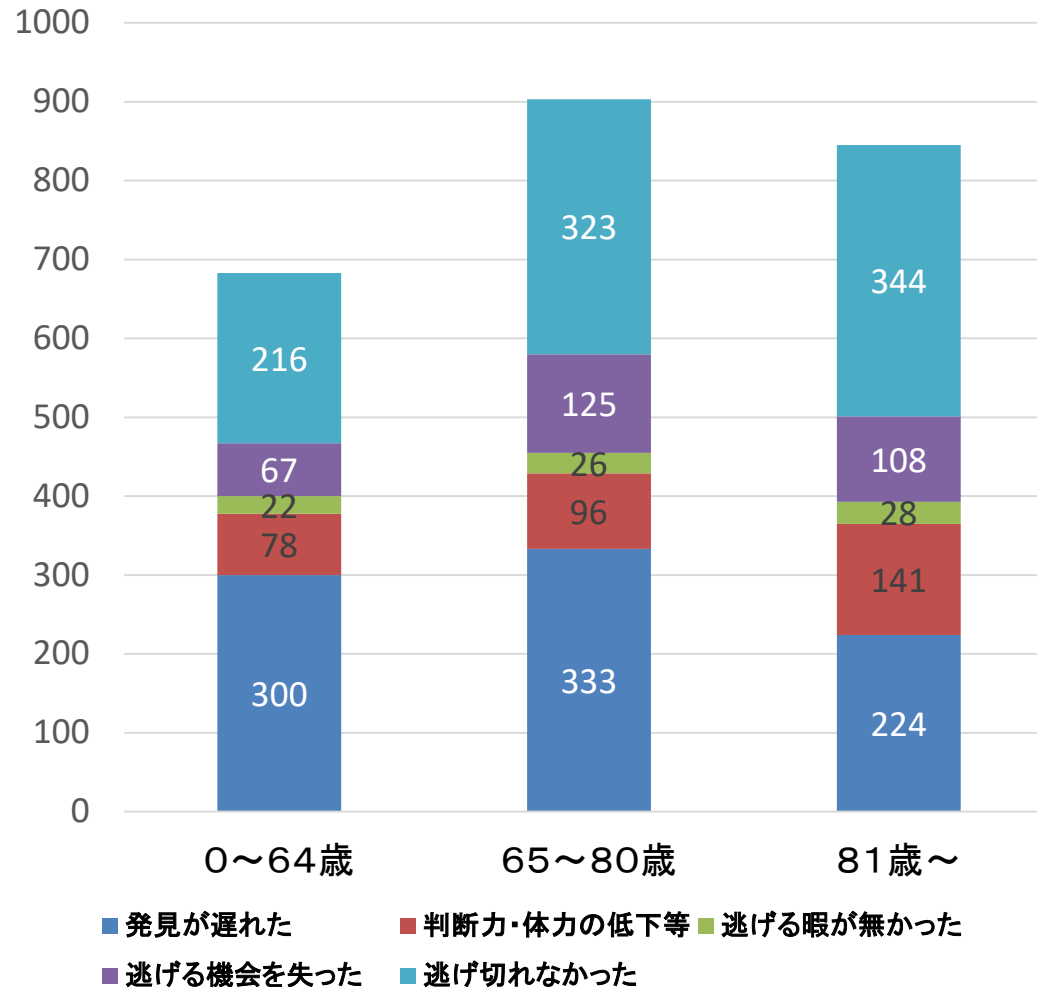
住宅火災における死者の発生した経過別死者数・割合



経過別	0～64歳	65～80歳	81歳～
逃げ遅れによるもの	92.4%	88.4%	86.3%
出火後再進入したもの	3.2%	3.5%	1.6%
着衣着火によるもの	4.3%	8.1%	12.1%

いずれの年齢層においても、逃げ遅れによる死者数の割合は**8割以上**を占めているが、高齢になるにつれ**着衣着火**による割合は増加する傾向にある。

「逃げ遅れ」の理由(中分類)別件数・割合



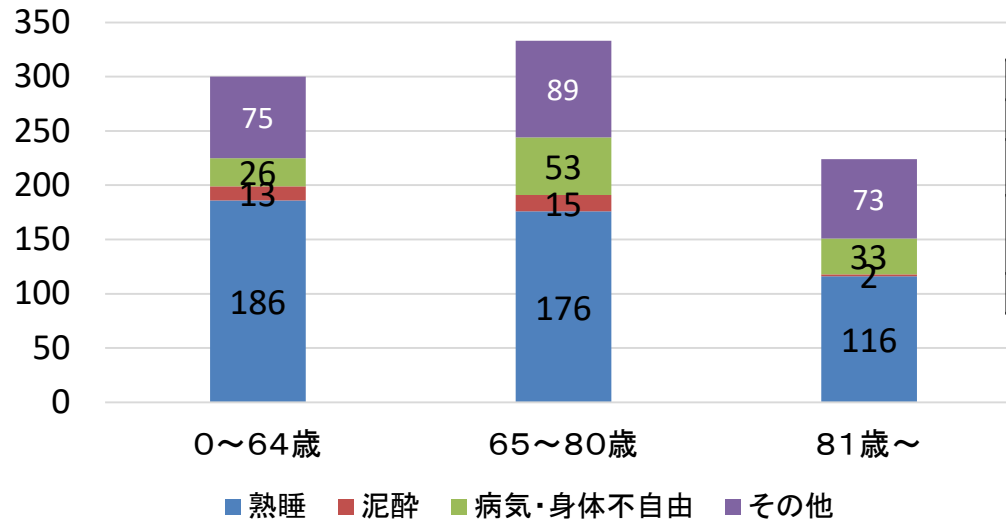
	0~64歳	65~80歳	81歳~
発見が遅れた (発見が遅れ、気づいた時は、火煙が回り、すでに逃げ道がなかったものと思われるもの(全く気づかなかった場合を含む))	43.9%	36.9%	26.5%
判断力・体力の低下等 (判断力に欠け、あるいは体力的条件が悪く、ほとんど避難できなかったと思われるもの)	11.4%	10.6%	16.7%
逃げる暇がなかった (ガス爆発等炎症拡大が早かったためほとんど避難できなかったと思われるもの)	3.2%	2.9%	3.3%
逃げる機会を失った (逃げれば逃げられたが、逃げる機会を失ったと思われるもの)	9.8%	13.8%	12.8%
逃げ切れなかった (避難行動を起こしているが、逃げ切れなかったと思われるもの(一応自力避難したが、避難中火傷、ガス吸引し病院等で死亡した場合を含む))	31.6%	35.8%	40.7%

81歳以上の年齢層では、火災の発見の遅れによる割合よりも、**体力的条件、逃げる機会を失う、逃げ切れ無かった**といった、避難行動を起こしているものの何らかの理由により、**逃げ遅れた**ものの割合が多い。

住宅火災による高齢者の死者の実態

※平成26年(2014年)から平成30年(2018年)までの火災報告データから抽出・集計

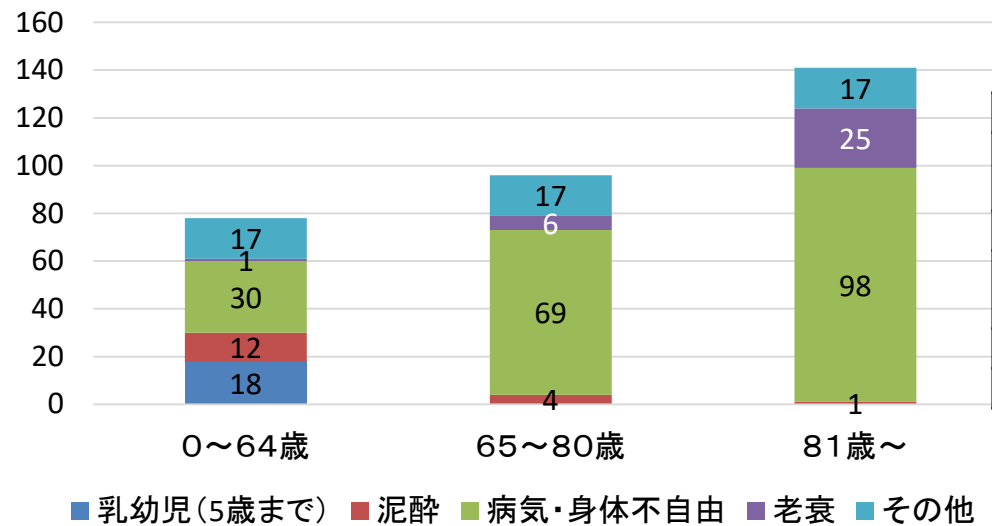
「発見が遅れた」理由別件数・割合



	0~64歳	65~80歳	81歳~
熟睡	62.0%	52.9%	51.8%
泥酔	4.3%	4.5%	0.9%
病気 身体不自由	8.7%	15.9%	14.7%
その他	25.0%	26.7%	32.6%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

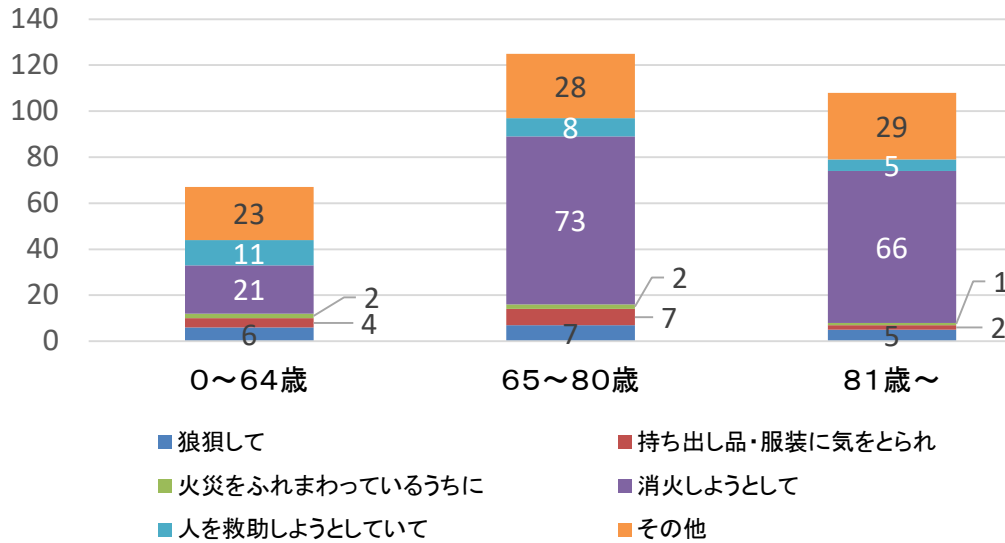
「判断力・体力の低下等」理由別件数・割合



	0~64歳	65~80歳	81歳~
乳幼児 (5歳まで)	23.1%	—	—
泥酔	15.4%	4.2%	0.7%
病気 身体不自由	38.5%	71.9%	69.5%
老衰	1.3%	6.3%	17.7%
その他	21.8%	17.7%	12.1%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

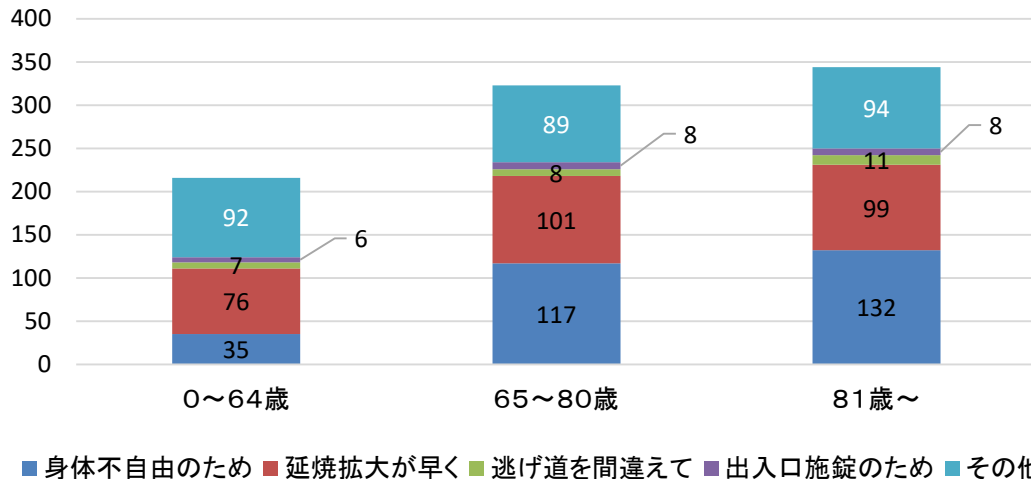
「逃げる機会を失った」理由別件数・割合



	0~64歳	65~80歳	81歳~
狼狽して	9.0%	5.6%	4.6%
持ち出し品・服装に気をとられ	6.0%	5.6%	1.9%
火災をふれまわっているうちに	3.0%	1.6%	0.9%
消火しようとして	31.3%	58.4%	61.1%
人を救助しようとしていて	16.4%	6.4%	4.6%
その他	34.3%	22.4%	26.9%

高齢者層では、**消火しようとした**割合が過半数を占めている。

「逃げ切れなかった」理由別件数・割合



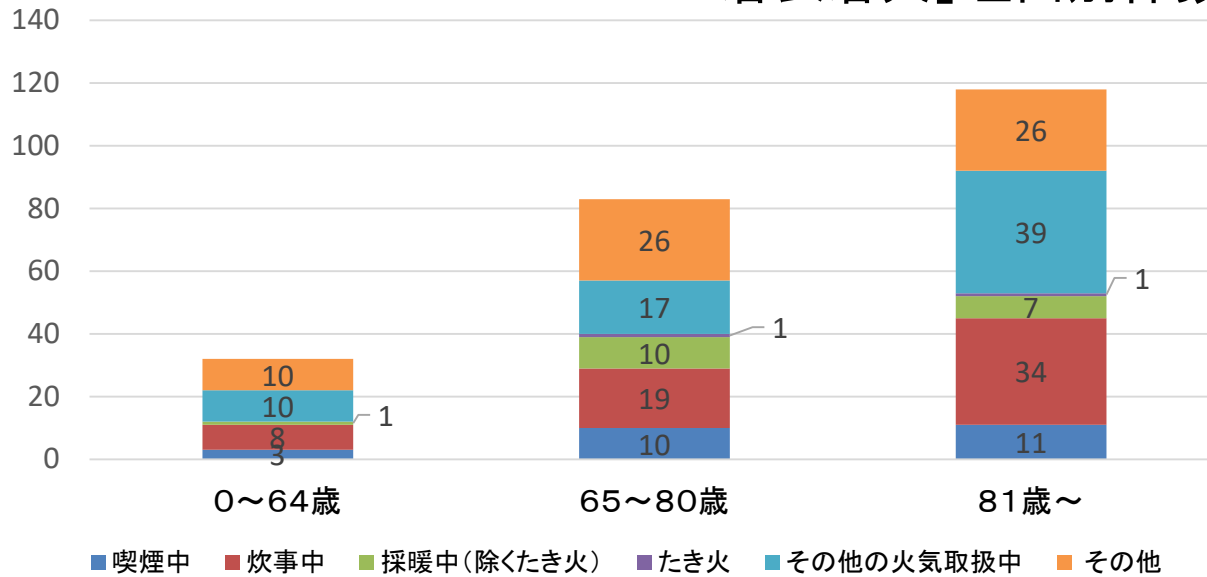
	0~64歳	65~80歳	81歳~
身体不自由のため	16.2%	36.2%	38.4%
延焼拡大が早く	35.2%	31.3%	28.8%
逃げ道を間違えて	3.2%	2.5%	3.2%
出入口施錠のため	2.8%	2.5%	2.3%
その他	42.6%	27.6%	27.3%

高齢者層では**身体的特性**による割合が多い。

住宅火災による高齢者の死者の実態

※平成26年(2014年)から平成30年(2018年)までの火災報告データから抽出・集計

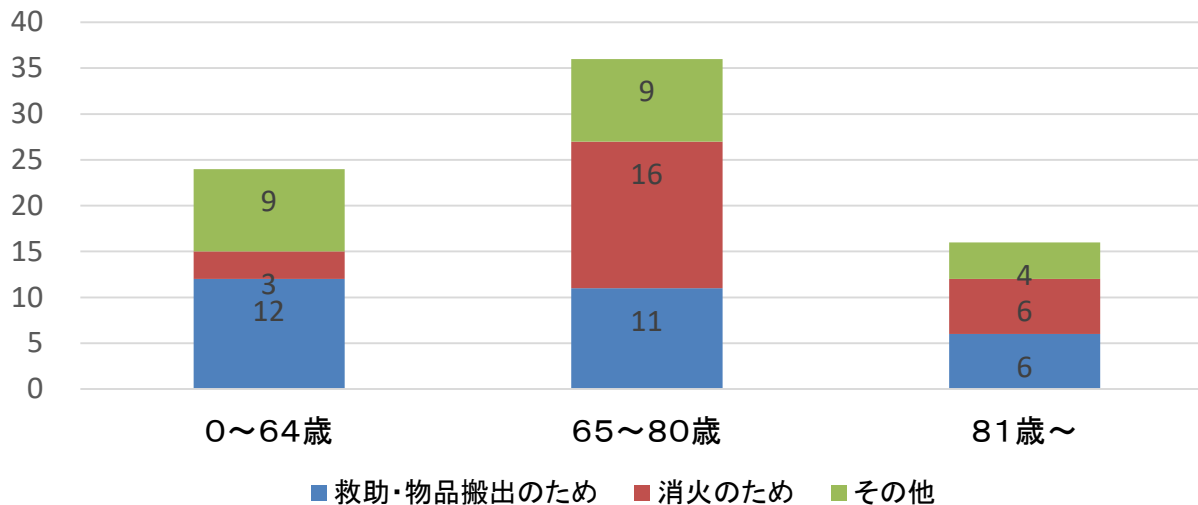
「着衣着火」理由別件数・割合



	0~64歳	65~80歳	81歳~
喫煙中	9.4%	12.0%	9.3%
炊事中	25.0%	22.9%	28.8%
採暖中(除きたき火)	3.1%	12.0%	5.9%
たき火	0.0%	1.2%	0.8%
その他の火気取扱中	31.3%	20.5%	33.1%
その他	31.3%	31.3%	22.0%

高齢者層では、何らかの**火気取扱中**に着衣等に着火する割合が多い

「出火後再進入」理由別件数・割合



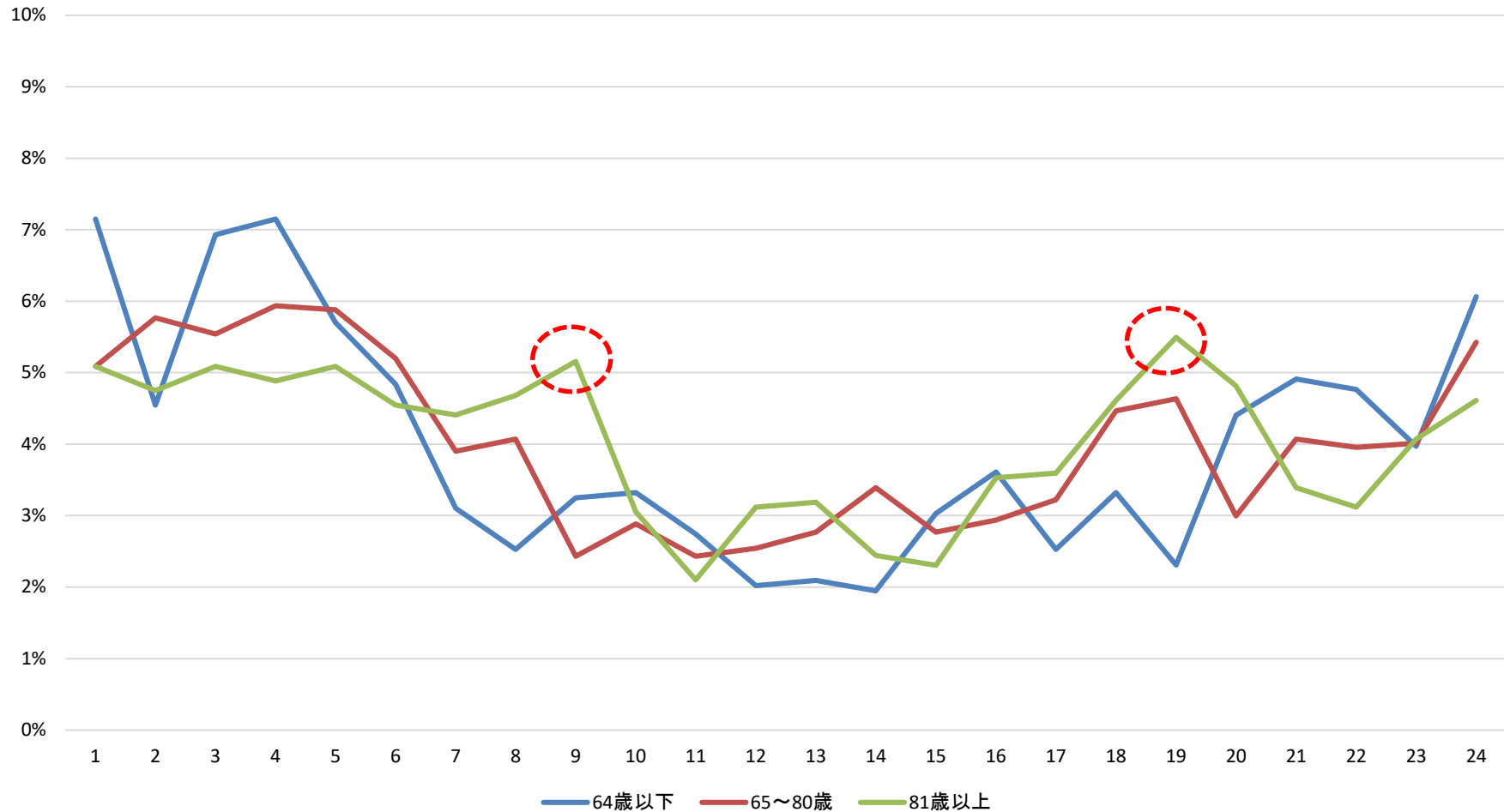
	0~64歳	65~80歳	81歳~
救助・物品搬出のため	50.0%	30.6%	37.5%
消火のため	12.5%	44.4%	37.5%
その他	37.5%	25.0%	25.0%

全体数が少ないものの、高齢者層では、**消火のため再進入**する割合が多い。

住宅火災による高齢者の死者の実態

※平成26年(2014年)から平成30年(2018年)までの火災報告データから抽出・集計

出火時間帯別死者割合(不明除く)



80歳以下の年齢層では、就寝時間帯の割合が多いのに対し81歳以上の年齢層においては、他の年齢層と比較し9時、19時の時間帯の死者数の割合が多い